

## 「ことぶき介護」を見学 介護と福祉の原点に触れる

4月13日、16人が参加して横浜市中区にある訪問介護施設「ことぶき介護」と寿地区を訪ねた。寿地区の日雇労働者は底辺労働力として日本経済を支えてきたが、高齢化が進み多くの人が生活保護を受け簡易宿泊所で生活している。こうした人達に対する訪問介護を行っているのが「ことぶき介護」である。

最初に近くのかながわ労働プラザで、徳茂万知子理事長から事業の概略の説明を受けた。続いて同事業所を見学。ケアマネ室とヘルパー室を見せていただいた。ヘルパー室には介護を受ける人ひとりひとりの薬の棚があり、きめ細かく管理されている。また、支援の一環として洗濯も行っている。汚れた衣類を洗濯して届けるのである。

この後、3班に分かれ寿地区を横浜市の寿福祉プラザ相談室の職員に案内していただいた。街角に大量のゴミが捨てられていたが、他地区からの投棄もあるという。市民の中に根強い差別観念があるためだ。

再び労働プラザに戻り、「ことぶき介護」管理者の梅田達也氏から詳細の説明を受けた後、寿福祉プラザ相談室の関根和晃氏から、寿地区の歴史、現状について話を聞いた。寿地区では毎年約200人が亡くなるが、ほぼ同数が流入してくる。何らかの困難を抱えた人達だという。関根氏は市職員としての40年の大半を寿地区の支援に携わってきたこともあり、言葉に重みを感じられた。

「ことぶき介護」は行政にも高く評価されている。これは容易に支援を受け付けられない高齢者などに対するケアの実績があるからだ。これは梅田氏に負うところが大きい。介護や福祉のあり方を考える上で意義ある見学会であった。(蜂谷隆)



徳茂理事長（右）の説明に聞き入る（「ことぶき介護」にて）